

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.16
平成24年9月11日

桜学区防災訓練行われる！

9月2日（日）、服部市長様はじめ来賓の皆様のご出席の下、南部消防署、消防団などの関係機関の指導をいただきながら、桜学区防災訓練が実施されました。「自助」・「公助」・「共助」という言葉を耳にします。大規模災害が発生した場合、公共の防災機関だけでは、被害防止の十分機能が果たせるとは言えません。「自分の身は自分で守ろう（自助）」という、一人だけの力にも限界が出てきます。

そこには、地域の人々のまとまった力（共助）が必要となります。「自分たちの住んでいる地域は自分達で守る」という意思と協力が必要となってきます。消防などの防災機関が現場に到着するまでの間初期活動を地域の人々が組織的に行えば、被害は最小限に抑えることができます。

そんなねらいの下、実施された桜学区の防災訓練は、とても意義あるものと言えます。



放水訓練に参加する桜小児童

いじめの三層構造！ ー全校朝礼の話よりー

最近いじめによる自殺のニュースを見ますが、そのニュースを聞くと、校長先生は、悲しくて悲しくて仕方がありません。周りの人が助けてやれなかったのかと思います。でも、いじめを受けている子は、誰にも言えず、もっともっと苦しかったことでしょう。

今日、校長先生がお話したいのは、その周りの人たちの話です。

いじめの三層構造って知っていますか。

- 1 番目、いじめをしている人（加害者）
- 2 番目、いじめをまわりで「やれ、やれ」って言っている人（観衆）
- 3 番目、周りでだまってみている人（傍観者）

1 番悪い人はだれですか？

もちろんいじめをしている人ですね。でも、校長先生は周りでだまって見ている人、見て見ぬふりをする人も悪いと思います。もし、いじめられている人がいたら、だまってはいけません。「止めたら仕返しされる」「みんなにかっこうをつけてると思われる」そんなことは全くありません。いけないことはいけないのです。

「いじめは絶対に許さない」という気持ちが大切なんです。「悪いことは許さない」という気持ちをみんながもつことが大事です。

桜小でも、1学期の終わりごろ、通学団でのいたずら、悪ふざけがありました。校長先生は、とても悲しくなりました。もちろん、そのことは、すぐに解決しました。

でも、校長先生は、そのとき周りにいた人たちは、どうしていたのかと思います。「いたずらを止めるよう言えたのかな」「いたずらを見たら知らんぷりしないで、先生たちにすぐに知らせてくれたかな」どうだったのでしょうか。

「いたずら、いじめは絶対許さない」という強い気持ちを桜小のみんな全員でしっかりもち、仲の良い集団、学級、桜小学校を創っていきましょう。